



上越教育大学附属中学校

# 研究たより

平成 29 年 4 月 7 日

上越教育大学附属中学校

研究主任 鴨井 淳一

## ◇はじめに

上越教育大学附属中学校は、平成 27 年度より文部科学省研究開発学校の指定を受けています。文部科学省研究開発学校とは、これからの社会の変化を予測し、10 年後、20 年後の未来を見据えて「新しい学校教育のモデル」を全国の学校に先駆けて開発していく制度です。1 年間の準備期間を経て、昨年度より当校独自の教育課程を編制し、取り組んでいます。

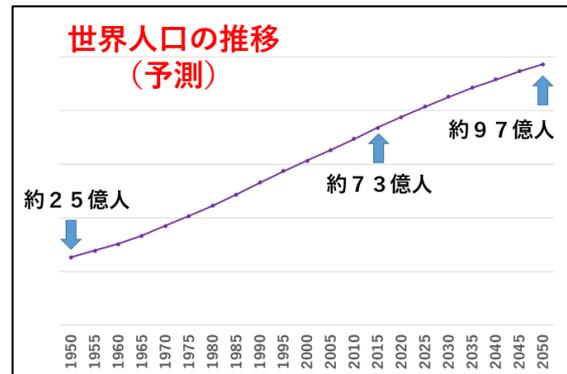
当校の研究テーマは、既存の教科で身に付ける学力だけではなく、変化の激しいこれからの社会にも柔軟に対応できる資質・能力をもった人材を学校教育全体で育てていく、というものであり、その趣旨については多くの学校・研究者からも御賛同をいただき、期待をお寄せいただいているところです。

本稿では、当校の研究主題や教育課程がどのような経緯で設定され、何を目指していくのか、目玉となる新設の「グローバル人材育成科」がどのようなものなのかについて御説明致します。

## ◇これからの時代で求められる人材とは

この先、10 年後、20 年後、30 年後の世界は、あらゆるものが地球規模で劇的に変化していくと言われています。今の中学生が大人になった頃の未来はいったいどのようになっているのでしょうか。

2015 年の世界人口は約 73 億人でした。今後も増え続け、2050 年には約 97 億人となり、100 億人に達するのは時間の問題と考えられています。当然のことながら、多くの人口を抱えるアジアやアフリカの新興国や開発途上国は、経済発展を遂げるために、日本



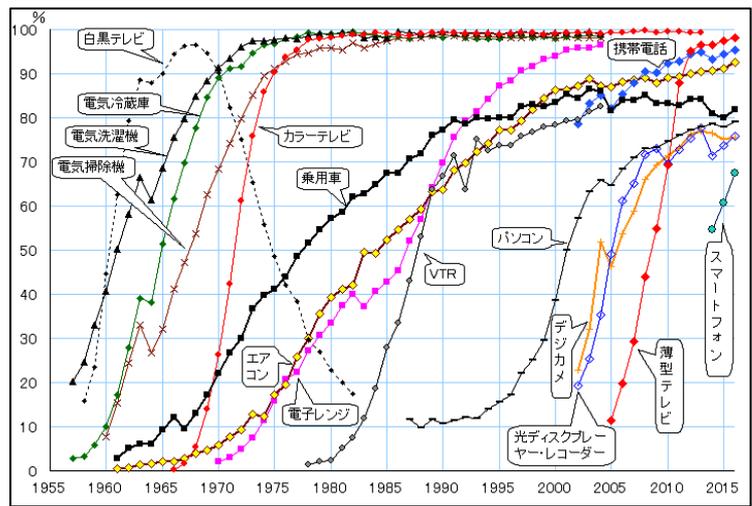
国連、World Population Prospects, The 2015 Revision

やアメリカのような高い生活水準を目指して、更なる開発を進めていきます。しかし、それぞれが自国の利益ばかりを重視した開発は、エネルギーの不足、エネルギー資源の枯渇、食糧不足、温室効果ガスの排出量の増加、地球温暖化、砂漠化、異常気象を招き、私たち人類の存続そのものを脅かすことになります。しかし一方で、これまで無秩序に化石燃料を燃やして開発を進めてきた先進国は、新興国や開発途上国に開発制限を強いることはできません。これからは、国を越えて、人類の持続可能な方向性を一緒になって模索し、結論を出していく必要があります。

一方、日本は今後、出生率の低下から人口減少が進み、更に高齢化が進みます。国民一人当たりの年金負担の増加や、労働人口の減少に伴い GDP も現在の世界第 3 位から大幅に下降することが予想されています。経済の仕組みや労働環境、仕事そのものの内容についても大きく変化していくことが予想できます。

ある研究者は、現在ある 702 の職種を全て分析し、「今から 10 年～20 年以内に、人間の仕事の 49%、つまり半分が“機械”や“コンピュータ”に奪われる」と述べています。今後、残っていく仕事は、機械ではなく、人でなくてはできない仕事、すなわち「アイデアを出し合い、新しいことを生み出す仕事」ということになります。

右のグラフは、家電や機械、コンピュータの開発や普及に関するデータですが、パソコン、薄型テレビ、スマートフォンなど、特にこの10年間で急激に開発・普及が進んでいることが分かります。グラフ左の高度経済成長期と同様の勢いが見え、20世紀末に一段落していた「新たな価値の創造」が、世界のニーズに応える形でまた大きく進められていることも分かります。機械で量産することはできても、やはり全ては人間のアイデアや話し合いから始まっていることを私たちは自覚しておく必要があります。



内閣府「消費動向調査 主要耐久消費財等の長期時系列表」2016年3月

さらに、日本においては、減少する労働人口を補う必要があることから、多くの外国人が雇用されることが予想されます。2020年の東京オリンピック開催を起爆剤に外国人観光客への積極的な誘致も進められ、消費者としてのターゲットは日本人だけではなく、世界中の人々へと変化していくことから、私たちは外国人を含む多様な他者とコミュニケーションやコラボレーションの輪を広げていかなければならないのです。

また、国内外を行き来せずとも、インターネットを通じて、瞬時に大量の情報のやりとり、商談、売買が可能になりました。普及率も高く、便利で実用性が高い反面、トラブルが多いのも実状です。顔の見えない相手とのやりとりや、出典の分からない情報に対しては、信頼性や道徳性の面からの確に判断し、運用していく力が求められます。

このような社会の変化、未来の予想は決して大げさなものではなく、多くの方に御理解いただけることと思います。未来は遠いものではありません。人類の存亡にも関わるようなグローバルな課題やこれまで人類が経験したことがなかったような課題に直面したとき、私たちはどんな視点でどんな力を発揮していったらよいのでしょうか。どのようにして社会と関わっていったらよいのでしょうか。そこで生き抜くことができる人材育成こそが当校の研究テーマの根幹となっています。



## ◇上越教育大学附属中学校の研究主題について

では、これからの未来に向けて、私たちはどのような中学生を育成していくべきなのでしょう。当校では、次のような研究主題を設定しました。

### 研究主題

## 持続可能な社会を創造し、自己を確立できる生徒の育成

そしてこの研究主題に迫るために、当校独自の教育課程を編制することとしました。具体的には、既存の教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語）、道徳、特別活動）に加え、「グローバル人材育成科」を教科として新設したところが、教育課程としての新しさとなります。この「グローバル人材育成科」は、課題討論の時間、企画創造の時間、グローバルコミュニケーションの時間という3つの分野から構成され、これからの社会で求められる資質・能力を育成していきます。

これから育成すべき資質・能力については、中央教育審議会や国立教育政策所、ユネスコなどで、様々な形で提唱されていますが、当校ではそうした潮流とこれまでの研究実践の成果を基に、育成を目指す資質・能力を以下の6つに設定しました。これらの6つの資質・能力を当校ではアビリティと呼んでいます。

### アビリティ

【情報統合力】：課題や目的に応じて、必要な情報を集め、まとめる力

【代替思考力】：課題の問題点や物事の本質を捉え直す力

【企画創造力】：周囲の状況や動向を予測しながら、みんなのためになる活動を創り出す力

【主体的実践力】：内容や活動を調整しながら率先して行動する力

【コミュニケーション力】：情報を受信したり、発信したりしながら、様々な考えや意見を認め合い、人やものとの関係を広げる力

【コラボレーション力】：異なる分野や目的をもった集団が協力して制作する力

これらの「アビリティをあらゆる場面で発揮すること」が、研究主題にある「持続可能な社会を創造すること」「自己を確立すること」を達成するものと捉えて、アビリティの育成を目指していきます。

## ◇グローバル人材育成科について

この新設教科では、これからの社会の変化や未来に対応すべく、必要な知識や技能を学ぶことはもちろん、課題解決のためにそれらをどのように活用していくかを学ぶことにも重点を置きます。

まず、3年間の学習内容を10のステージで編制し、それぞれに行事や校外実習などの大きな学習活動を設定しました。キャンプや修学旅行、文化祭といった従来の行事もありますが、それぞれの活動をただ進めるのではなく、そこでどのような力を発揮していくか、そのために事前にどういった知識や技能を学んだらよいかを逆算して、授業内容を設計・配列しています。また、話し合いや発表の仕方、情報や思考整理の方法など、協働するために必要なトレーニングも行っています。

通常の教科のようなテストや評価は行いませんが、生徒はそれぞれのステージでの身に付けるべき知識や技能を明確にしながら学びの目標を設定し、自己評価をしながら学習を進めていきます。タブレット端末（iPad）を常時活用し、学習時の動画や画像撮影だけでなく、アイデアの共有や自分の振り返りのツールとしても活用を図り、それぞれが学びを蓄積していきます。

## ◇当校の教育課程について

昨年度から実施している当校の教育課程（授業の時数）は以下ようになります。現行の学習指導要領に定められている標準授業時数 3045 時間に対して、3240 時間（+195 時間）としました。これは、既存教科の学習内容の確実な定着を図ることに加え、アビリティ育成のためにグローバル人材育成科の時数を十分確保する必要があるためです。国語、社会、理科、英語の学習内容の一部は、グローバル人材育成科に盛り込まれるため、若干の時数の削減となりますが、学習内容の削減ではありませんので、御安心ください。

	グローバル人材育成科			各教科										特別活動	計
	課題討論の時間	企画創造の時間	グローバルコミュニケーションの時間	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳		
1年	35	35	70	135 (140)	105 (105)	140 (140)	105 (105)	45 (45)	45 (45)	105 (105)	70 (70)	120 (140)	35 (35)	35 (35)	1080 (1015)
2年	35	35	105	130 (140)	100 (105)	105 (105)	135 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (105)	70 (70)	120 (140)	35 (35)	35 (35)	1080 (1015)
3年	50	35	100	95 (105)	130 (140)	140 (140)	130 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (105)	35 (35)	120 (140)	35 (35)	35 (35)	1080 (1015)
計	120	105	275	360 (385)	335 (350)	385 (385)	370 (385)	115 (115)	115 (115)	315 (315)	175 (175)	360 (360)	105 (105)	105 (105)	3240 (3045)

※上段は新しい教育課程における授業時数

※下段（ ）は学習指導要領に定められている標準授業時数

※旧教育課程の「総合的な学習の時間」に関する標準授業時数は、上記に掲載していませんが、各学年の計（1015）には含まれています。

今年度の教育研究協議会は10月16日（月）です。毎年、500名以上の来校者があるため、当日の運営には、保護者の皆様からも御協力をいただいております。間近には御案内をさせていただきますので、今年度もお力添えをいただけますようお願い致します。また、子供たちの学びや成長の様子については、7月と12月にアンケートを実施しますので、そこで御意見をいただければ幸いです。

実質2年目となる平成29年度の研究が始まります。早速、4月11日（火）、12日（水）に新2年生が「観桜会おもてなしプロジェクト」を展開します。1年前に先輩の活動を観察するところから始まった一大プロジェクトがいよいよゴールを迎えます。この1年間で培った様々なアビリティが発揮されることと期待をしています。詳細は当校のポータルサイトをご覧ください。

桜城文化祭は、文化会館での秋の合唱コンクールを11月1日（水）、おもてなしイベントを11月3日（金・祝）に行います。更なるバージョンアップを行いますので、どうぞ御期待ください。今年度も当校の研究推進に御理解、御協力をお願い致します。

研究主任 鴨井 淳一